＜　果樹栽培における防除技術　＞

ス　ボーベリア菌によるゴマダラカミキリ・キボシカミキリの防除法

昆虫寄生性糸状菌（ボーベリア　ブロンニアティ）はゴマダラカミキリ、キボシカミキリに強い殺虫効果を示す。本菌はカミキリムシの皮膚を貫通して侵入し、体液中の養水分を奪いながら増殖し、約７～10日で硬化病を引き起こし、死に至らしめる。

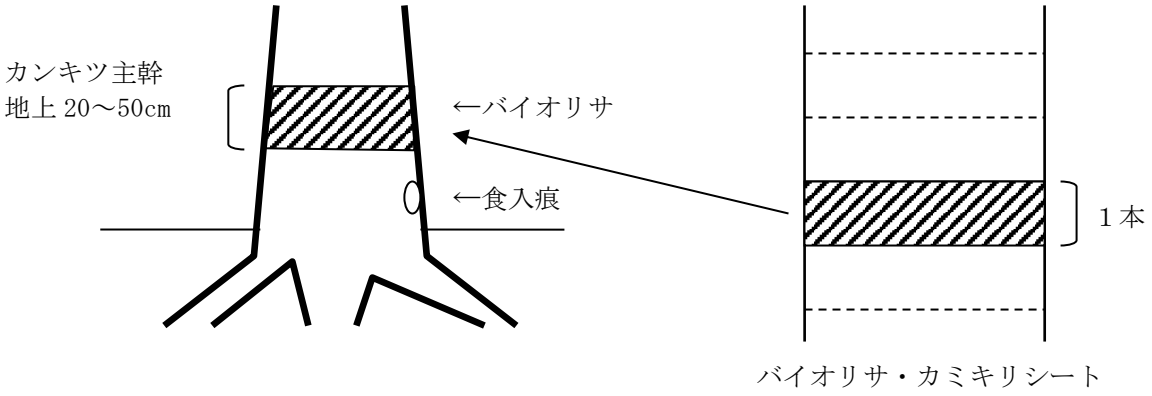
本菌を人工的にパルプ不織布に固定した製剤（商品名：バイオリサ・カミキリ）が市販されている。本剤は被害樹から脱出してくる成虫に本菌を感染させ、産卵前に死亡させることを目的としている。

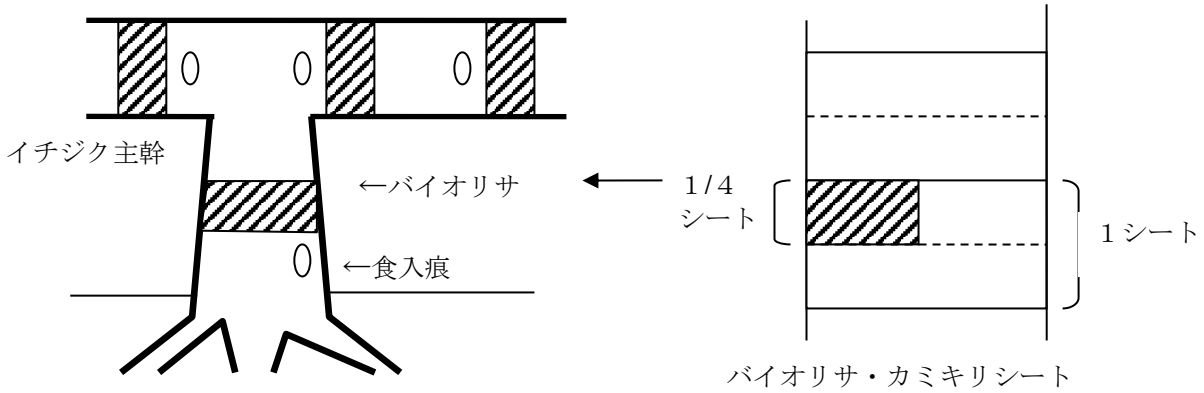
処理方法は、成虫が羽化してくる食入部位付近に製剤のシートを巻き付け、ずり落ちないようにホッチキスで両端を止めるか、幹に直接張り付ける。有効期間は約30日で、残効性を保つために雨が流れる部分や直射日光の当たる箇所を避けて設置する。

広い面積に処理するほど効果が高く、最低10ａ以上での設置が望ましい。

(ｱ) カンキツのゴマダラカミキリ防除

成虫の発生初期（５月下旬～６月上旬）に、１樹当たり１本を主幹地際部（地上20～50cm）に巻き付ける（下図参照）。



(ｲ) イチジクのキボシカミキリ防除

成虫の発生初期（６月上旬頃）に、１樹当たり１シートを用いて、１／４に裁断したものを、主幹及び枝部（計４か所程度）に巻き付ける（下図参照）。